

えんぱーくで寄せ植え オナー

塩尻市の市民交流センター・えんぱーくでこのほど、施設周辺に「オナー」ら15人が参飾る花の寄せ植え作業 加し、花の組み合わせ

都市大塩尻 廻字路に化

生徒ら ペチュニアなど

れている市道の植樹帯を活用し、ペチュニアとマリイゴールド約180株を植えた。植樹前には草取りもを行い、一帯をきれいにした。水やりなど花の管理は生徒役員や環境衛生委員会の委員らが中心になって取り組んでいく。大島桃子生徒会長(17)「3年」は「活動を通して、ごみを捨てない意識や地域へ感謝する気持ちが広がってほしい」と願っていた。

活動には地元の大門7区の役員も参加し「身近に花があると気持ちも明るくなる」と生徒らの活動に感謝していた。地域住民と市が連携して美化に努める「グリーン塩尻パートナー制度」の一環として市も活動を補助している。

(莊 隆子)



多田さん(左)の助言を受けながら作業する参加者

を楽しみながらオリジナルの鉢を完成させた。サルビアやニチニチソウといった夏から秋にかけて見頃となる花と、アイビー、パセリなどの葉物が用意された。ガーデンデザイナー・多田紳也さん(47)「松本市両島」が助言し、参加者は根を張りやすくするため土を固めないよう注意しながら植え込んでいった。9月末までそれぞれが水やりなどの管

理をしていく。NPO法人グループHIYOKO(ひよこ)の浜崎和子さん(69)は「成長すると花が増えていくので、えんぱーくへ来るのが楽しみ」と話していた。

えんぱーくの市民支援組織「えんぱーく」の事業の一環で、一昨年からおナー制度を取り入れている。今年には14の団体・個人が19鉢を管理していく。

(鎌倉 希)